

旧友との縁が取り持つ記念塔 文化勲章受章 澄川喜一さんと大竹

J R大竹駅を降りると、正面にある石の記念塔。市章を冠したこの記念塔は、市制施行30周年記念として建てられたものです。手掛けたのは、彫刻家の澄川喜一さん。今秋、科学技術や芸術などの文化の発展、向上に功績のあった人に贈られる文化勲章を受章されました。

澄川さんの作品と大竹市とを取り持ったのは、当時市職員だった杉本守正さん(87歳 西栄)です。

澄川さんと杉本さんは、山口県立岩国工業高校の同級生でした。お互いクラスは違いましたが、美術部で澄川さんが部長、杉本さんが副部長という気心の知れた仲だったといひます。

「彼は毎日のように錦帯橋に出掛け、橋の下からその造形を飽きることなく眺め、描いていました。そのデッサン力は素晴らしかった。彼の創作の原点は錦帯橋だったと思います」と杉本さん。

卒業後、東京藝術大学彫刻科に進み、数々の作品を生み出します。その後も同大学の教授、学長を務めました。

昭和59年に市制30周年を迎えるにあたり、澄川さんと杉本さんの関係を知った当時の助役廣中義則さんから、杉本さんに交渉役が命じられました。その結果、旧交を大切にす澄川さんから快い返事があり、実現の運びになったそうです。

周南市沖の黒髪島の御影石を使った記念塔は、昭和59年9月に完成。記念事業の一環として、お披露目することができました。

現在、大竹駅とその周辺は新しく生まれ変わろうとしています。記念塔も現在の位置からは動くことになっていますが、移転場所は検討中とのことです。

高名な芸術家の作品が、また新たな場所で、大竹のシンボルとして輝くことでしょう。

澄川喜一(すみかわ・きいち)彫刻家

昭和6年島根県六日市町(現吉賀町)に生まれる。東京藝術大学彫刻科卒業。同大学名誉教授。平成12年文化功労者。令和2年文化勲章。東京スカイツリーのデザイン監修としても知られる。



文化功労者の祝賀会場で、同窓生と。澄川さん(中央)杉本さん(右)



MIYUKI会の定例会では、石本さんの歌に思いを寄せて、楽しく踊ったりしています。

いた思いを引き継いでいきたい。そういう強い信念が、会を立ち上げる動機になったと振り返る本間さんです。幸い70人もの賛同を得て、昨年8月に発足し、活動を開始することができました。

「もっと早くこういう会があればよかった」というたくさんの声を聞きました。ぜひ私たちと一緒にやりましょう」と本間さんは、参加を呼び掛けます。

20人程度が集まる月1回の会合では、生演奏やテープに合わせた石本さんの歌をみんなで歌ったり、踊ったり、石本さんを取り上げたテレビ番組のビデオを見たりしています。10月には市の文化協会にも所属して、ますます活動の

幅を広げようとしたましたが、コロナのため、やむを得ず年内は活動休止。今年は何らかの催しをしたと考えていたそうですが、今のところそれもないません。

「息子さんの望美さんとも交流していきたい。できれば大竹で講演をしていただけたらと思ったりします」と田中さん。

「石本さんの歌は、どれを聴いてもふるさとである大竹が思い浮かぶようです。生まれ故郷の大竹を通して日本の心を描いた石本さんの思いを感じると、本間さんと田中さんは声をそろえました。

MIYUKI会への問い合わせ
☎523900

作詞家・石本美由起×美空ひばり
昭和歌謡 ふたつの歌魂

12月1日(火) 20時~21時54分放送
BSテレ東(BS 7 チャンネル)

大竹市内でロケ、取材された映像も流れます。



亀居公園にある顕彰碑に刻まれた「歌と故郷と思い出」という詩を見つめる本間さん(右)と田中さん。

MIYUKI会を立ち上げた会長の本間美穂子さん(本町2)と副会長の田中雅子さん(栗谷町後原)に、その思いを伺いました。

「昭和29年に大竹市が誕生し、その祝賀パレードのときに、『大竹小唄』という曲に合わせて踊ったことが思い出です」と本間さん。この曲は、大竹町時代に石本さんをはじめ複数の人により作詞されたものでした。しかし、歌詞と楽譜は残っているものの、その歌を知る人は、今では数少なくなりました。記憶をたどりながら『大竹小唄』の1節を口ずさんでくれる本間さんで

「結婚や就職などで、大竹以外の土地から移り住んできた人には、なじみが薄いかもしれませんが。本間さんは少し残念そうな表情をのぞかせます。

「石本さんが大竹のために残してくれた、たくさんの歌を埋没させず、後世に伝えていきたいというのが、MIYUKI会の大きなテーマです」。田中さんは、力を込めます。

「先人たちが石本さんに抱いて

石本さんの没後10年にあたる昨年、一つの会が生まれました。石本さんの歌を今一度、市民の皆さんと共に味わいたいと発足した、『石本美由起の歌を広める会』、通称MIYUKI会というグループです。

石本さんの没後10年にあたる昨年、一つの会が生まれました。石本さんの歌を今一度、市民の皆さんと共に味わいたいと発足した、『石本美由起の歌を広める会』、通称MIYUKI会というグループです。

その後、昭和32年には、石本さんの手により、新生大竹市のテーマ曲ともいえる『大竹音頭』が誕生。それから『大竹ばんざい』、『竹ぶし慕情』、『大竹ばやし』、『玖波小学校校歌』など、ふるさとの歌の数々を贈ってくれました。

ところが、お年寄りの中にも、曲は知っているものの、それが石本さんの作品だとは知らない人がいることに、本間さんは驚いたそうです。



亀居城跡のパンフレットには、公園内の『詩の坂道』にある石本さんの作品の歌碑も紹介されています。パンフレットは、総合市民会館などにあります。

歌い継ぎたい ふるさとの心 石本美由起に思いを寄せて

MIYUKI会に聞く

【取材 企画財政課】